



文部科学省の統計教育大学間連携ネットワーク主催のシンポジウム『論より統計！』
『データサイエンス力の高い人材の育成に向けて』
10月25日、午後2時から東京大学工学部教室にて開催
300席の会場は立ち見も出る超満員状態！



2件の〈特別講演〉とパネルディスカッションとも、客席からの質問も飛び交う熱気満々でした



川崎先生 仙波先生 長谷川先生 須江先生 鈴木先生 丸山先生 今泉先生 中川先生 酒折先生 安宅先生 西郷先生

10月25日(土)午後2時から東京大学工学部2号館で、大学間連携共同教育推進事業「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」統計教育大学間連携ネットワークが主催する『論より統計！ データサイエンス力の高い人材の育成に向けて』シンポジウムを開催しました。

統計教育大学間連携ネットワークは、文部科学省大学改革推進等補助金事業(平成24年度採択)「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」のために設立されたもので、東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学が連携しています。

今回のシンポジウムは応用統計学会、日計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会など学会が連携、内閣府、総務省、統計関連学会連合が後援して開催しました。

日本大学の川崎茂教授の総合司会で、青山学院大学の仙波学長の開会挨拶、会場提供元・東京大学の長谷川副学長の歓迎挨拶が行われシンポジウムが始まりました。

第1部は2件の特別講演、初めは「経済成長を担う“データサイエンス”力の高い人材育成」をテーマに総務省統計研修所長の須江雅彦先生がお話になり、続いて「企業のマーケティング活動とデータサイエンス」をテーマに日経リサーチ取締役の鈴木督久先生が行いました。

第2部は総合研究大学院大学の丸山宏教授の司会で、ヤフーCSOの安宅和人氏、中央大学の酒折文武准教授、NTTデータ数理システム取締役の中川慶一郎氏、多摩大学の今泉忠教授をパネリストに『データサイエンス力とは何か?』をテーマにパネルディスカッションが行われました。

熱気冷めやらぬ会場も、午後5時半過ぎ、早稲田大学の西郷浩教授が登壇、閉会挨拶を行い、シンポジウムは終了しました。



『論より統計！ データサイエンス力の高い人材の育成に向けて』シンポジウム



《総合司会》の川崎先生

午後2時「データサイエンス力の高い人材の育成に向けて」“統計学”の役割は大きいと、日本大学経済学部の川崎茂教授の総合司会で始まりました。



《開会挨拶》の仙波先生

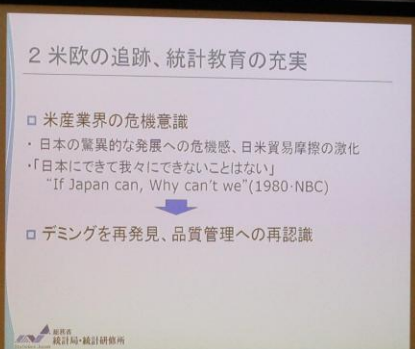
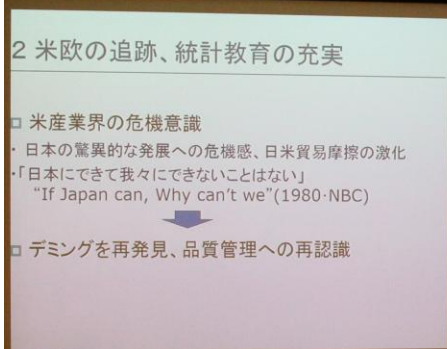
青山学院大学の仙波憲一学長が開会挨拶を行い、統計教育大学間連携ネットワーク(JINSSE)の発足の目的や活動の意義などを紹介しました。



《歓迎挨拶》の長谷川先生

会場となった東京大学の長谷川壽一副学長が登場し、「データサイエンス力の高い人材育成が急務とシンポジウム開催を歓迎する旨、挨拶しました。

《特別講演》『経済成長を担う“データサイエンス”力の高い人材育成』須江雅彦先生



最初に登壇されたのは総務省統計研修所長の須江雅彦先生。

第二次世界大戦後の荒廃から奇跡の復活を遂げるきっかけとなったのが“統計学”の知識を組織的に活用した品質改善にあり、世界に日本の生産活動の効率性を印象づけたこと、その日本を分析・研究した米国や欧州諸国は21世紀を「知識基盤社会」と位置づけ教育改革に取り組んだことを強調しました。

1990年代、SCANSレポート以降、強化された統計教育に対し、立ち遅れた日本の統計教育を挽回すべく、学習指導要領の改訂が行われ、強化されていますが、さらにデータサイエンス力の高い人材育成に向け取り組んでいると強調。

近年、中央統計機関として総務省は公的統計の発展と統計リテラシーの普及、オープンデータ戦略の取り組みなど示唆に富むお話を頂きました。



『論より統計！ データサイエンス力の高い人材の育成に向けて』シンポジウム

《特別講演》『企業のマーケティング活動とデータサイエンス』鈴木督久先生



最初の講演が公共部門である総務省に対して《特別講演》2番目は民間部門を代表し日経リサーチ取締役の鈴木督久先生が登場しました。

企業のマーケティング活動ではマーケット・リサーチを中心に統計手法が活用されてきました。

流通市場でもデータマイニングによるPOSシステムが活用されています。現在は幅広い分野でデータを活用されていますが、いろいろな形のデータをニーズに即した形に加工し活用するにはデータサイエンスの能力が不可欠であり、ビジネス課題の理解力も求められると訴えました。

特別講演終了後には会場からの質問も活発でした



質疑応答で質問する参加者

須江先生と鈴木先生の《特別講演》終了後には、司会の川崎先生のリードで早速会場から手が挙がり熱心な質疑応答が行われました。

実践的な授業を展開されている高等学校の先生からの具体的な質問はじめ、予定時間を超えて質疑応答が続き、休憩時間を割いての展開となりました。



パネルディスカッション『データサイエンス力とは何か？』



今回のパネルディスカッションは第1部の《特別講演》で公的部門統計を代表する総務省の須江先生、民間部門を代表する日経リサーチの鈴木先生、お二方からのお話から、必要とされる“データサイエンス”の内容や人材育成の課題などを受けて『データサイエンス力とは何か？』をテーマにディスカッションが行われました。

パネリストにはデータサイエンスを活用している企業の立場から安宅和人氏と中川慶一郎氏の2名、統計学を中心とする大学教育で教壇に立つ立場から今泉忠氏と酒折文武氏の2名の計4名が、そして企業経験豊かで現在は教育側の立場でもある総合大学院大学教授の丸山宏先生がリーダーを務めました。

パネルリーダーが仕掛けたディスカッション



最初に丸山リーダーが①データサイエンス力とは何か、どのようなスキルが求められているのか、②そのような人材をどのように育成し、利活用するか、③いわゆる「統計」との関わりは、といった視点を説明、各パネリストが自己紹介の後、ディスカッションに入りました。

パネルリーダーを務めた総合研究大学院大学教授の丸山宏先生は大手コンピュータメーカーや家電メーカーなどの企業経験をお持ちで、かつ現在は教壇に立ち、教える立場でもあることからデータサイエンスにはただならぬ縁を持ちです。

日頃からデータサイエンスに取組み、産学双方の立場を熟知しておられる丸山先生、今回の企画にぴったりのリーダー、日頃、統計学や統計関連の指導に取り組んでいる大学の先生方を見つけてはパネリストの発言に対して授業で行っている事例などの説明を求めるなど活発なディスカッションを演出しました。



パネルディスカッション『データサイエンス力とは何か？』



私たちにも馴染みの深いヤフーのチーフストラテジーオフィサー（CSO）を務める安宅和人氏はまたデータサイエンティスト協会の理事を務める根っからのデータサイエンティスト。

企業側のニーズとしてデータサイエンティストが求められるが企業内では分野毎に専門化・細分化されており、全体を見渡し、方向性を見極めてプロジェクトをまとめる能力が必要なのだが、それが簡単に教育できない点が問題と指摘しました。



次は教育分野から中央大学理工学部数学科の准教授・酒折文武先生は大学での統計教育の専門家であると同時に日本統計学会の統計教育委員会の委員などを務めると同時に、統計手法の幅広い活用を推進すべく、スポーツ統計や応用統計などの分野でも活動しています。

統計の普及啓蒙に向けた取り組みや統計検定の運営はじめ、近年強化されている統計教育の支援活動にも熱心に取り組んでいます。



こちらはマーケティング・エンジニアでかつオペレーションズ・リサーチ、応用統計などを専門とするNTTデータ数理システム取締役の中川慶一郎氏は、学術研究からデータビジネスのコンサルタントを務めるなど最先端を経験された方です。

ORやデータマイニング分野で事業展開される傍ら大学でも教鞭を取られ、産学双方を熟知しデータサイエンス教育の難しさも実感している様子で実体験による発言が続きました。



こちらも大学教育で統計を教えておられる多摩大学経営情報学部経営情報学科長の今泉忠先生。日本統計学会だけではなく統計手法を活用する日本行動計量学会などの理事を務められ、統計検定の運営委員も務めるなど統計の普及啓蒙に取り組んでおられます。

経歴の中では統計手法が幅広く活用されている社会学研究や応用社会学といった分野にも造詣が深く、統計の間口の広さを具現化されているようです。



パネルディスカッション『データサイエンス力とは何か？』



今回のパネルディスカッションはこれまでのものとは些か趣が違い、パネルリーダーが一番楽しんだ様子。会場内のほとんどの参加者の得意分野を把握しておられ、パネリストが説明した内容を次々と参加者に振り、回答を求めるため参加者もうかうかしていません。



突然、丸山リーダーから質問を振られ答える鈴木先生、大慌て。特別講演で紹介されたインサイトにあったビジネスとして求められる能力はと説明。



前回はパネリストとして壇上で説明する側にあった狩野先生、JINSEの連携大学でもある大阪大学の教授として応援パネリストに変身。



総合司会をしていた川崎先生も司会どころではありません。質問をしたり答えたりと忙しいこと。



統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）運営委員長でもある青山学院大学経済学部教授の美添先生も急遽パネリストに変身？

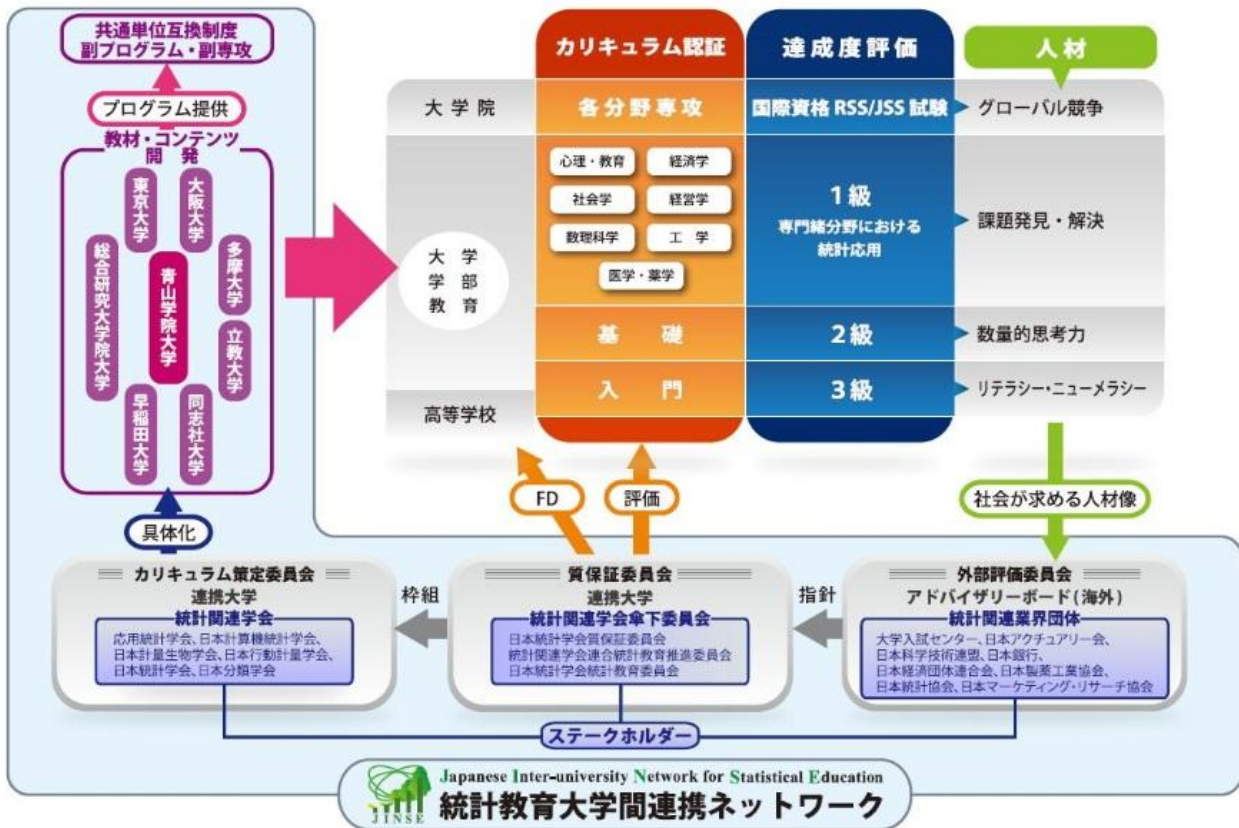


JINSEのメンバーでもある立教大学教授の山口先生も大学での統計教育を紹介するなど、丸山リーダーの指名で次々とパネリストに変身しました。

リーダーが何でも知っているから始末が悪い？ではなく、より深く説明が必要な内容を求めたことでパネルディスカッションがこんなに熱を帯るとは…。

『統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE）って何？』

統計教育高度化質保証 PDCA サイクル



出典： <http://www.jinse.jp/img/pontie.jpeg>



閉会挨拶は昨年秋に開催された前回シンポジウム『論より統計！社会が求める人材になるために』の会場提供大学であった早稲田大学政治経済学術院教授の西郷浩先生が行いました。

文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業として「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」の提案が選定され、展開されているのが「統計教育大学間連携ネットワーク（Japanese Inter-university Network for Statistical Education：略JINSE）」です。

東京大学、大阪大学、総合研究大学院大学、青山学院大学、多摩大学、立教大学、早稲田大学、同志社大学の連携により、各大学の統計教育資源を有効に活用し、データに基づく科学的な思考力を増進させ、我が国の今後のイノベーションを担う課題解決型人材の育成を目指しています。

今後も広く情報発信を行い、統計関連学会とも連携し、統計教育の普及・啓蒙に資する活動を続けたいので、ご理解とご支援をと挨拶を行い、午後6時前、この日の行事を終了しました。

